

すべての信じる者のために祈るイエス

ヨハネ福音書17章20-26節

【新改訳 2017】

- 17:20 わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。
- 17:21 父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。
- 17:22 またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。
- 17:23 わたしは彼らのうちにおいて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。また、あなたがわたしを遣わされたことと、わたしを愛されたように彼らも愛されたことを、世が知るためです。
- 17:24 父よ。わたしに下さったものについてお願いします。わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。わたしの栄光を、彼らが見るためです。世界の基が据えられる前からわたしを愛されたゆえに、あなたがわたしに下さった栄光を。
- 17:25 正しい父よ。この世はあなたを知りませんが、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知っています。
- 17:26 わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これから知らせます。あなたがわたしを愛して下さった愛が彼らのうちにあり、わたしも彼らのうちにいるようにするためです。」

【祈りながら考えよう】

- (1) 20節の「彼らのことばによってわたしを信じる人々」とはどういう人々を意味していますか。
- (2) 世界教会運動がしている一致運動と21節のみことばが意味している一致はどう違いますか。
- (3) 24節「わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください」の意味を説明してください。

【解説】

(1) すべての人を一つにしてください

わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。(20-21節)

主は、十字架に掛かれる前に最後の祈りの中で、今日の私たちもその中に入るすべてのキリスト者のために祈っておられる。

主は何を祈っておられるのか。「すべての人を一つにしてください」である。ここでよく注意しなければならないことは、この「一つ」ということは、組織的、外的に一つになることではなく、霊的、内的に一つになることである。どんなに外見はうまくいっているように見えても、心においては少しの交流もないような外形的な一体性のことではない。

①世界教会協議会の問題

今日、世界教会協議会 (WCC/World Council of Churches) というのがあって、プロテスタントもカトリックも一緒になって、共同の事業をしようと言って、新共同訳聖書というのを出したりしているが、そういうことは全然異質のことがここで言われている。

「世界教会協議会」は、そのホームページで、「主イエス・キリストを神、救い主と告白し、唯一の父、子、聖霊の栄光への共通の召しを共に果たすことを求める教会の交わりです。それは、一つの信仰と一つの聖体の交わりにおいて目に見える一致に向かう途中の教会の共同体であり、礼拝とキリストにある共同生活の中で表現されています。

それは、イエスが弟子たちのために祈ったように、「世が信じるように」この一致に向かって前進しようとしています。(ヨハネ17:21)」と説明されている。

世界教会協議会、いわゆるエキュメニカル・ムーヴメントと呼ばれる運動は、このヨハネ福音書17章21節の「すべての人を一つにしてください」をモットーとしているが、それは、ここで主が意味しておられることとは全然別のことである。この運動は内的、信仰的に一致がないのに、ただ協力して一緒にやっという運動である。

②「カトリック教会の教え」の問題

カトリック教会には聖書の真理に基づかない秘跡ひせきといった迷信的な教えが数多くある。十じゅう誠じやうの第二戒「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない」(出20:4)を意図的に削除している。逆に第十戒を二つにしている。

マリヤ崇拜をはじめ多くの聖人崇拜を礼拝堂の至る所で行っている。プロテスタントの聖書教理とは多く異なっている。プロテスタントとカトリックが仲良く一緒になって何かすることが、主イエスが21節で祈っておられる「すべての人を一つにしてください」の意味ではない。

(2) 21節の真の意味

主がここで祈っておられる「すべての人を一つにしてください」というのは、「父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください」であり、御父と御子の一体性と同じ一体性、共通の内的特質に基づいた一致である。

私たちが暖かい愛の交わりを持つことができるのは、「キリスト信仰による一体性」があるからである。別の言葉で言えば、ひとりひとりが主イエス・キリストの十字架の死によって、その罪を赦されたという体験を持っているところから生まれてくる一体性である。

いくらキリスト教会とは言っても、生まれ変わっていない人や、キリストによる罪の赦しを経験していない人々を教会員として受け入れている教会の間に、「キリストによる一体性」はありえない。

(3) この世にない栄光を見る

このような暖かい愛の交わりを見る時、この世の人々はだれでも、この交わりの中におられる主を知ることができる。最初、人々はその世にはこの世にない何かがあると感じる。やがてそれが彼らの救い主なのだということが分かり、そのお方が天の父なる神から遣わされて来たお方なのだと分かる。それがここで主が「栄光」と言っておられるものである。

世の人々は、私たちキリスト者がこの世にないものを持って耀いているのを見る。それこそ神の栄光にほかならない。その栄光は、この世にはない。

この世にあるものは、憎しみであり、争いであり、対立であり、お互いを傷つけ合い、ののしり合うことである。しかし、キリストの教会はそうではない。そこには愛がある。神の御子イエス・キリストがいのちがけで私たちを愛して下さった愛が生きている。

たとい、ののしられてものしり返さず、苦しめられても、おどすことをしない。自分の利益を求めず、他の人の益になることを心から求める。

キリストの弟子とされた者たちは、キリストの御心をわが心とし、キリストの後について行く。キリストならどうされたかをいつも考える。こうして愛の共同体が生まれていく。

(4) 「わたしとともにいるようにしてください」

「父よ。わたしに下さったものについてお願いします。わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください」(24節)

御子の願いはその民をご自身とともに栄光のうちに住まわせることである。私たちキリスト者は、死を迎える時、主と共に天の御国に行くことができる。

完全な愛の一致のある所、それが天の御国である。その前味わいとも言うべきものを、私たちは今地上の教会において持っている。主が私たちの交わりの真ん中にいてくださるから、それができるのである。

主は次のように祈って、この祈りを締めくくっておられる。

「わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これから知らせます。あなたがわたしを愛して下さった愛が彼らのうちにあり、わたしも彼らのうちにいるようにするためです。」(26節)

共におられた時に、主は御父の「御名」を弟子たちに知らせた。彼らに御父を啓示されたという意味である。主のことば、またみわざは、御父のみことばであり、みわざであった。彼らは、キリストの中に、御父の完全な現れを見た。五旬節の日以来、御霊は、信じる者に「父なる神」のことを教え続けておられる。特に、神のことばを通して、私たちは神がどのようなお方かを知ることができる。

主イエスを通して啓示された御父を受け入れる時、その人は、御父の愛を特別に受ける対象となる。主イエスがすべての信者の中に内住しておられるので、御父はまるで、ご自身のひとり子をご覧になって扱われるように、信者をご覧になり、扱われる (ロイス)。